

メッセージアウトライン テサロニケ人への手紙 第一 2:14~16 「教会の受ける苦しみ」

[14]「兄弟たち。あなたがたはユダヤの、キリスト・イエスにある神の諸教会にならう者となったのです。彼らがユダヤ人に苦しめられたのと同じように、あなたがたも自分の国の人に苦しめられたのです」

「ユダヤの…諸教会」とはエルサレムを始めとするユダヤ地方の教会。そこは当然ユダヤ人中心であった。テサロニケ教会はギリシヤの北部にあり、パレスチナ地方とは地理的にも離れ、教会ができた年代も違うが、それがユダヤの諸教会にならう者となったと言われている理由はそれぞれ「自分の国の人々に苦しめられた」という事実による。ユダヤ人の教会は同国人のユダヤ人たちに迫害され苦しめられ、テサロニケの教会も同国人のギリシヤ人に苦しめられた。

信仰のゆえに受ける苦しみ→Ⅱテモテ3:12、ピリピ1:29、使徒14:22

イエスご自身も世の救いのために十字架の死に至る多くの苦しみを受けられた。→ルカ9:22

しかし、教会の受ける苦しみは無限に続くものではなく、それは豊かな報いと栄光に満ちた復活に至り、神とともに永遠に生きる希望が確かに約束されている。→マタイ16:27、Ⅰコリント15章、Ⅰテサロニケ4:16~18、

教会はこの希望に生かされ、さまざまな苦しみの中で戦いつつ勝利していくものである。その点においてユダヤとテサロニケの教会は全く同一であった。

[15]「ユダヤ人は、主であられるイエスをも、預言者たちをも殺し、また私たちをも追い出し、神に喜ばれず、すべての人の敵となっています」

パウロはここでユダヤ人を鋭く批判している。

①主イエスを殺した。…四つの福音書にはっきり書かれている。

②預言者たちを殺した。…マタイ23:29~34 これは旧約の時代からである。

③パウロたち使徒や伝道者を追い出した。…これはテサロニケを始め諸外国各地に住んでいたユダヤ人たちによる迫害である。

これらの結果は当然、「神に喜ばれず」ということになる。それどころか、神の怒りを買ひ、そのかたくなさ、排他性、唯我独尊的な生き方により、周りの「すべての人の敵となっている」。

[16]「彼らは、私たちが異邦人の救いのために語るのを妨げ、このようにして、いつも自分の罪を満たしています。しかし、御怒りは彼らの上に臨んで窮みに達しました」

15~16節に書かれているようなユダヤ人たちの行為は、「いつも自分の罪を満たす」結果となる。しかし、パウロはユダヤ人に対する反感をことさらにあおり立てるためにこのように言っているのではない。あくまでもテサロニケ人やユダヤ人の上に神がみわざをなして、働いておられるという事実を教えているのである。

パウロたちが宣べ伝えた神のみことばは働いてテサロニケ人たちに受け入れられ、

他方同様にユダヤ人たちに宣べ伝えられたみことばは受け入れられず、彼らは信じる者を迫害する者となった。それは結果的には、いつも自分たちの罪を満たしているということであり、そのような彼らに対する神の御怒りは窮みにまで達しているのである。

誤った選民意識による高慢さ、排他性、攻撃心、愛のなさ、これらによって彼等はますますかたくなとなり、福音を受け入れようとしない者となり、神の御怒りを受ける者となった。

しかし、ここで私たちはテサロニケ人も含めた異邦人とユダヤ人に対する神の救いの御計画も知っておかなければならない。→ローマ11:19~29

「イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時まで」(ローマ11:25)と言われている。異邦人の救いが完成すると、次にイスラエル人の救いも完成する。これは神の救いの御計画である。しかし、彼らであっても不信仰を続けなければ救われることができるのである

私達も日本人もユダヤ人のように心かたくなな者になるのではなく、神の前に罪を認め、悔い改めて、イエス・キリストを自分の救い主と信じ、従う者とならなければならない。すでに信じ受け入れている者は、さらに神のみこころにかなう者としてキリストの良き証し人として生きていくことが大切である。